

高島及び関崎周辺地域の気候

暖かい冬と涼しい夏

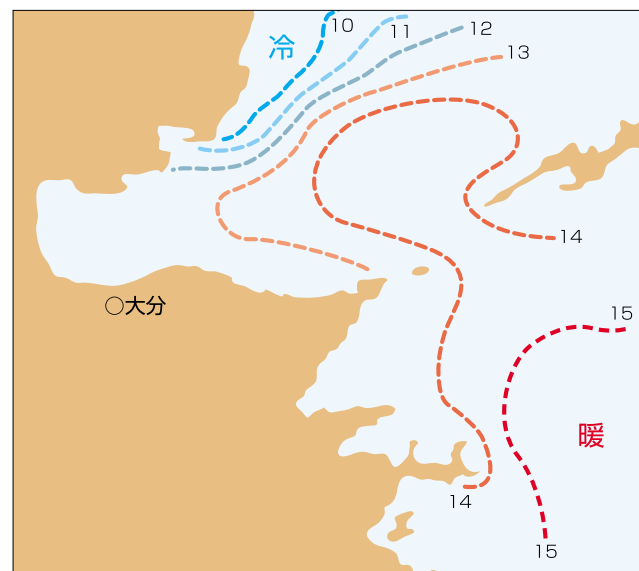
関崎から高島にかけての地域の気候は、冬が暖かく夏が涼しいことが第一の特徴です。2002年の場合、冬の夜の平均最低気温は大分市で0.7℃であり、内陸部ではさらに下がりました。しかし高島では5.5℃で大分市よりも5℃ほど高く、冬でも霜の降りることは珍しいのです。一方、夏の昼間の平均最高気温は、大分市で31.3℃でしたが、高島では27.1℃で、4℃も低くなっていました。

これは豊後水道を北上してくる黒潮暖流の温度の影響によるものです。下の図に示したように、冬の海水温度は、高島付近では14℃ぐらいであり、気温よりも10℃あまり高くなっています。この暖かい海水の影響で、高島では冬の冷え込みが少ないのです。

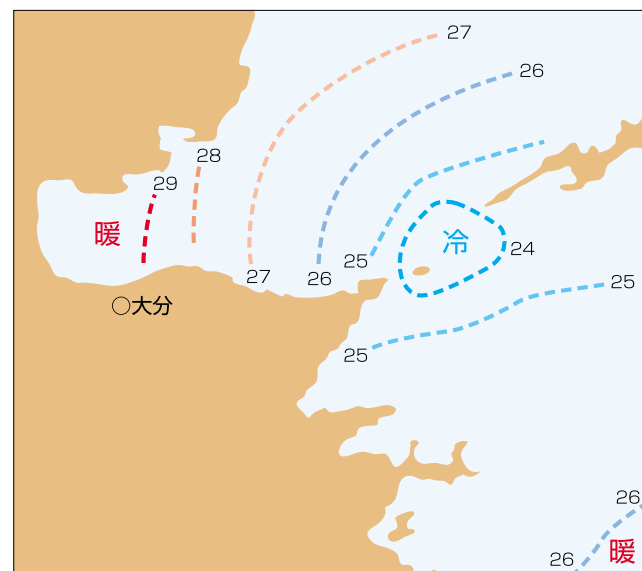
夏になると、海水の温度は24℃ぐらいにとどまり、昼間には30℃を超える陸地よりも、かなり温度が低くなっています。このように陸地よりも温度の低い海水の影響によって、豊後水道の島々や沿岸部では、夏の昼間が涼しいのです。



関崎付近より高島を望む。左手に淡く見えるのは四国の佐田岬。



2002年2月



2002年8月

豊予海峡付近の海水温の分布(℃)

少ない降水量

この地域の気候のもう一つの特徴は、瀬戸内型に属して降水量が少ないことです。大分県の内陸部では年間平均2,000ミリを超え、山岳地帯など所によっては3,000ミリ以上に達します。しかし瀬戸内沿岸部では1,500ミリまで減り、関崎から高島にかけては、これよりもさらに少なく、1,450ミリ程度となり、大分県内でも降水量の最も少ない地域です。その理由は、海の上で上昇気流が起こりにくいからだと思われます。

地域気象の観測

大分県下各地の気温や降水量など気象の観測資料は、気象庁のアメダスや国土交通省、大分県などによるものがありますが、もっと狭く限定された地域の詳しい気象資料は、ほとんどないのが実情です。こうした資料のない地域の気候を知るためには、下の写真のように、温度計や雨量計を設置して観測する必要があります。

温度計は日射の当たらない木陰などに取りつけます。この写真ではシックス型といわれる最高・最低温度計と、一定時間ごとに気温を記録する装置を用いています。

雨量計はビニール管などを利用して作り、草原など開けた場所に設置します。一定期間内に雨量計に溜まった水の体積(cc)を測り、これを受水口の断面積で割って降水量(ミリ)を求めます。

1か月ごとぐらいに最高気温や最低気温、降水量などを読み取ります。こうした温度計や雨量計による観測は、少なくとも1年間は続けることが大切で、その結果を他の地域のものと比較することにより、その地域の特徴を知ることができるのです。



観測に使用した温度計



観測に使用した雨量計